

NEWS RELEASE

平成 22 年 3 月 25 日

**アートコンテンツに特化したデジタルサイネージ
『デジタルアートボード』の実証実験を開始**

株式会社電通（本社：東京都港区、社長：高嶋達佳、以下電通）は、昨今注目を浴びているデジタルサイネージ※1分野において、美術作品との連動などにより「アートコンテンツ」に特化し、「アート」と「広告」とを融合させた新しい広告媒体「デジタルアートボード」を開発し、3月27日より東京ミッドタウンにて実証実験を行います。

電通は、デジタルサイネージが世の中により広く受け入れられ、新しいメディアとして確立しその市場を拡大していくために、メディアの設置ロケーションに適したクリエイティブ・コンテンツ開発が重要であると考えます。そこで、電通はデジタルサイネージの次世代の広告媒体としての可能性を検証し、新しいコミュニケーション形態の確立を目的とした実証実験を行うことにいたしました。

今回の実証実験では、6面のモニターを連結した大型のデジタルサイネージ『デジタルアートボード（屏風型液晶ディスプレイ）』を設置。当デジタルサイネージの放映では、特にコンテンツに注力し、千住博氏作『水の森』のデジタル変換動画、葛飾北斎作『富嶽三十六景 凱風快晴』『富嶽三十六景 神奈川沖浪裏』（共にボストン美術館所蔵スポルディングコレクション）のデジタル変換動画、東京ミッドタウン内サントリー美術館『和ガラス—粋なうつわ、遊びのかたち—』展出品作品映像等を放映致します。放映は半年間行い、その中で多種多様なクリエイティブ・コンテンツの放映とそのイメージに合わせた広告とを放映します。

この実験を通じて、どのようなクリエイティブ・コンテンツが人々に受け入れられ、コミュニケーションが成立し得るかを検証致します。そこで得られた知見を活用することにより、今後、デジタルサイネージ分野におけるコンテンツ領域の市場拡大を目指すとともに、メディアとしての確立を推進します。

※1 デジタルサイネージ（電子看板）：街頭や店舗・施設内、駅構内などに設置された液晶ディスプレイ等による映像放映媒体の総称。昨今の技術革新によって多種多様なロケーションへの設置が進められています。屋外での新しいコミュニケーション手法として、今後益々活用されていくことが大いに期待されています。

<『デジタルアートボード（屏風型液晶ディスプレイ）』概要>

■設置場所

東京ミッドタウン プラザ地下1階 インフォメーション 付近

■サイズ

60インチ縦型モニター6面（横：約5m×縦：約2m）

■放映開始日

2010年3月27日～



この実証実験では日本初の試みとして1CPU・1グラフィックボードでの高解像度マルチ画面表示を実現した、シングルシステムによる6画面出力デジタルサイネージでの放映を行います。この放映は、カナダMatrox社開発の1枚で複数面へのディスプレイに出力できるマルチモニター対応グラフィックボード「M9188」と、カナダCIC社開発で大容量のデータを瞬時に表示し、スピーディーかつスムーズにリッチコンテンツを配信できる放映システム「enVision」の組み合わせにより、実現しています。これにより、1つの映像コンテンツの複数モニターへの同期放映を可能にしています。

<コンテンツ提供>

■千住博

1958年。東京生まれ。日本画家。ニューヨーク在住。

京都造形芸術大学学長。日本画の存在やその技法を世界に認知させ、真の国際性をもった芸術領域にすべく、講演や著述等世界的視野で幅広い活動を行っている。

■浮世絵 ポストン美術館所蔵スポルディングコレクション

明治後期、浮世絵に魅了されたアメリカの富豪スポルディング兄弟が、帝国ホテル（ライト館）を設計したことで有名な建築家フランク・ロイド・ライトに依頼し収集し、その後「展示しない」ことを条件にポストン美術館に寄贈したとされる約6千5百点あまりの浮世絵のコレクション。「展示しない」という条件は、光や外気による劣化を避ける為のものであり、ポストン美術館は今日に至るまでこの条件を守り、未展示にて大切に所蔵している。その結果この浮世絵の多くは寄贈当時の色合いを残しており、現存する浮世絵の中では最高品質と称されている。

■サントリー美術館

1961年開館。2007年春より東京ミッドタウンに移転。「生活の中の美」を基本理念とし、ミュージアム・メッセージ「美を結ぶ。美をひらく。」を掲げ、企画展を中心に活動を行っている。コレクションは、絵画、工芸、染織、ガラスなど日本古美術を中心とした約3000件を収集。今回放映されるのは、「和ガラス—粋なうつわ、遊びのかたち—」展（2010年3月27日（土）～5月23日（日））出品作品より。江戸から明治にかけて作られた、粋で、遊びごころ一杯の「和ガラス」の美を約150件の作品で紹介する。

<システム協力>

■Matrox Graphics Inc.

カナダ・モントリオールに本社をおき、1976年の創業以来世界中のセールスオフィスと代理店を通じてオフィスユースから金融・医療・デジタルサイネージなど幅広い分野に高品質なグラフィック製品を提供している。

日本国内の代理店はジャパンマテリアル株式会社(<http://www.jmgs.jp>)。

■Content Interface Corporation

本社はカナダ・トロント。北米、ヨーロッパ、アジアのパートナー企業や代理店を通じてデジタル画像やマルチメディアソリューションのための優れたコンサルティング・サービスの開発・提供を行っている。

日本の代理店は株式会社デジタルニッチアーカイビング(<http://www.e-dna.co.jp/>)

<運営管理>

■株式会社アクシコ (<http://www.axico.jp>)